

スタートカリキュラム作成にあたっては、まず「小学校学習指導要領解説 生活編」を基に、『スタートカリキュラムの意義や考え方』『スタートカリキュラム作成のねらい』など基本的な事項について、全職員で共通理解を図る必要があります。

スタートカリキュラムの必要性

◆小1プロブレムを解消する

遊びや生活を中心とする幼児教育から教科等の学習を中心とする小学校教育への移行は、子どもにとって戸惑いや「**段差**（尊重すべき違い）」があります

◆発達と学びの連続性を図る

スタートカリキュラムとは 保育所(園)などから小学校に入学した子どもたちがスムーズに小学校生活へ適応していけるように編成した**一年生入学当初のカリキュラム**のことです

(幼児期)学びの芽生え

〈三つの自立〉

- ・ 学びの自立
- ・ 生活上の自立
- ・ 精神的な自立

★幼児期に培った力は児童期につながります

円滑な接続

(児童期)自覚的な学び

〈学力の三つの要素〉

- ・ 基礎的な知識・技能
- ・ 課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力等
- ・ 主体的に学習に取り組む態度

ポイント

それぞれの教育・保育現場で、連携の意味や価値を十分認識し、子どもたちの育ちを「見取る力」や「指導力」を高めることが必要です。日常の教育・保育活動や教育課程（スタートカリキュラム）などに反映していくことが、子どもの『発達と学びの連続性』につながります。そのためには、子ども・教職員同士が交流するなど連携することを通して、尊重すべき違いを共通理解することが大切です。

作成するもの

身に付けさせたい力・習慣の一覧表 1

指導内容・指導方法
指導時期の整理 2, 3, 4

生活科を核にした
合科的・関連的な
学習の構想 5

スタートカリキュラム
(月・週プラン) 6, 7, 8

スタートカリキュラム作成に必要な準備・工夫

- 1 子どもが感じる違いを知る
(幼稚園・保育所(園)と小学校)
- 2 幼稚園・保育所(園)での学び方や保育者の指導の仕方を参考にする
- 3 指導方法として、生活に即した学びの構成を考える
- 4 学習環境の工夫を考える
- 5 合科的・関連的な指導の充実を図る
(生活科を核にした単元構成を行う)
(教科における生活科との関連性を図る)
- 6 職員全体の理解を図る
- 7 近隣の幼稚園・保育所と連携する
- 8 カリキュラムについて保護者の理解を得る

ポイント

スタートカリキュラムを作成するにあたって、子どもたちが学校生活に対して**安心感**をもてるようにすることが何より大切です。新しい集団のなかで人間関係を築いていけるような、また、新しいルールを受け入れ自己発揮することができるようなカリキュラムを作成しましょう。

明日も学校が
楽しみ!

